

『東日本大震災』において、被害に遭われた皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

また、被災地において、昼夜を問わず被災者救助をはじめとする災害対策に全力を尽くしておられる皆様に、深く敬意と感謝の意を表します。

被災地においては一日も早い復旧と、皆様のご無事を心よりお祈り申し上げます。

株式会社大倉/オークラグループ



大津波の爪跡が生々しい仙塩地区の惨状。降雪もあり、厳しい環境と救急車など緊急車両が行き交うなかを目的地に向かった(写真撮影はいずれもオークラハウジング緊急特命派遣チーム)



被災した顧客マンションを訪れ緊急災害用浄水器を起動。棟外からバケツで汲んできた雨水を目の前で浄水したときは、周りにいた人たちから笑顔がこぼれた



災害はいつでもどこでも起こり得る。マンションに設置される災害時用トランク式浄水器

【企業はいま……オークラハウジング社の東日本大震災対応】

“速攻”で実践された企業の被災顧客支援

株式会社 大倉(本店:大阪市北区、東京本社:東京都中央区、川合洋明代表取締役社長)は、大規模ニュータウンの開発、注文建築、戸建分譲、分譲マンション等提供、そしてマンション管理、会員制リゾートクラブ(ザ グラン リゾート)事業をグループ展開している。大倉グループを特徴づけるのは、顧客との信頼関係を事業の柱に、社会貢献への積極的な姿勢を示すところにある。その実践例として、レストラン事業を通じた食育の推進、学校給食への提案(一流シェフによるメニュー開発)、また「子どもと一緒に成長する家」の提案を行っている。

加えて、防災面で特筆されるのは、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた災害時用浄水システム事業だ。この浄水装置は、宇宙ステーションで水のリサイクルを目指して開発している浄水技術を応用したもので、風呂の湯や雨水、プール、川の水を安全な飲み水に変えることができる。災害時に命を支える必須アイテムとして、同グループは自ら開発する住宅に設置している。

その大倉グループの一員でマンション管理を担当するオークラハウジング(株)が、東日本大震災で被災顧客救援に迅速な対応をみせた。“事業を通じた企業の被災者支援”として高く評価されるものであり、企業の災害対応事例として、同社スタッフ・レポートを紹介する。



発災時の緊急対応 (以下、レポート:オークラハウジング・大井 進氏)

・3月11日(金)午後2時46分、東北地方太平洋沖地震が発生。私たちはあらゆる手段で情報収集を行いながら非常時体制に。翌12日(土)には東北地区物件データを作成、支援物資の準備を行った。

・3月13日(日)、午後9時、特命を受けた社員防災士2名がワゴン車で東京を出発、国道4号線をひたすら北へ、まずは宮城県・仙台市へと向かった。その間、対向車はあるものの北へ向かう車はほとんどなかった。福島に入ると山崩れで道路が寸断され、所どころ道路に段差があり波打っていて走行が危険な状態。信号や街灯、家の明かりはまったくなく、ヘッドライトの明かりだけが頼りという異様な雰囲気を感じた。

・3月14日(月)、宮城県の物件調査を開始。仙塩地区ではあちこちで車が横転し、見渡す限り瓦礫の山で、頭で想像していた被害をはるかに上回る悲惨な光景の地域が向かう先ざきで展開した。救急車、消防車、パトカーが頻りにすれ違うなかで、道端に座り込んでいる人や泣いている子どももいて目頭が熱くなった。

・18日(金)まで物件調査は実施され、宮城県の15棟と山形県の1棟が調査された。点検は1階から最上階まで目視点検を行い、建物倒壊の危険の有無を確認、電気・ガス・水道、また受水槽・エレベータ・機械式駐車場等の設備点検を行った。目視ができない夜間には、エレベータ停止のなかで、18リットルポリタンクに水を汲み、居住者に届ける支援活動を行った。また、緊急災害用浄水器を用いて棟外より雨水を汲み、浄水し、配給もした。その後、郡山市・福島市の4棟のマンションを点検、住人の皆様に緊急災害用浄水器の取り扱い方を説明して集客室に設置、3月19日(土)未明に東京へ帰着した。

■今後の管理会社としての取り組み

今回被災地を回り、緊急時にマンション管理組合の連絡網が機能しなかったという話を何度も聞いた。パソコンには連絡網のデータが保存されているが、停電でパソコンを起動することができなかったという。緊急連絡網は書面で作成しておくことも大切だ。また、非常食の確保や水の備蓄、乾電池や懐中電灯、ラジオ等の防災グッズの備えも再度提案したい。また、実践さながらの防災訓練の実施も必要である。

緊急災害用浄水器を実際に被災地で使用した感想としては、改めて使い方が簡単だと確認できた。本体に解りやすい説明書も貼ってあり、子どもでも操作が可能。棟外からバケツで汲んできた雨水を目の前で浄水したときは、周りにいた人たちから笑顔がこぼれた。

弊社は大阪が本社で阪神淡路大震災を経験したことから、会社のスローガンとして『安心と安全』を掲げ、社員の防災の知識・意識を高めるために『防災士』の資格取得にも取り組んできた。その結果、今回の東日本大震災の発生とともに、支援物資を集め、緊急災害用浄水器を持ち込み、防災士を被災地に素早く送り込むことができた。現在は、被災地に持ち込んだ組合様用の緊急災害用浄水器および家庭用浄水器の取り付け依頼が殺到している。双方ともに放射性物質を含む有害物質をほとんど除去できる逆浸透膜をとり入れた浄水システムであり、お客様に自信を持ってご紹介したい。そして今後とも、被災地復興のために全力を尽くしていく決意であることを付け加えておく。

[>>株式会社 大倉](#) >>[オークラハウジング株式会社](#)